

令和4年度

特色ある学校づくり

—亀山市特色ある学校づくり推進事業 実践報告書—

令和5年3月

亀山市教育委員会

はじめに

今、日本の社会は、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会、そして新型コロナウイルス感染症感染拡大等大きく変化しつつあります。このような状況の中をたくましく生きていく人材を育てるには、豊かな人間性を育むとともに、一人ひとりの個性を生かしその能力を十分に伸ばすことが必要になってきています。一人ひとりの個性を生かす教育を行うためには、学校全体を子どもの個性を生かせるような創造的で柔軟なものにしていく必要があります。「特色ある学校づくり」はそのような教育を実現するためのものです。各学校が子どもたちや地域の実態等を十分踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教材活動を展開すれば、一人ひとりの個性を生かして、生きる力を育む教育が可能になっていくのです。

亀山市におきましては、「亀山市学校教育ビジョン」のもと、亀山の豊かな自然や歴史文化、芸術・芸能などを大切な教育資源として活用する教育を進め、今年度全ての学校に設置されました学校運営協議会等の組織や人的環境を活用し、地域ならではの創意や工夫、強みを活かした特色ある学校づくりを推進してまいりました。

今後も、各校が地域の教育資源を最大限に活かした独創的な教育活動を展開し、魅力に満ちた特色ある学校づくりを行うことで、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」の育成、「心の教育の充実」を図るとともに、より一層地域から信頼される学校づくりを目指してまいります。

結びに、本事業の取組に関しまして、多大なご支援・ご協力を賜りました保護者・地域の皆様、関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和5年3月

亀山市教育委員会教育長 中原 博

目次

I 特色ある学校づくりにむけて	1
1. 特色ある学校づくりとは	2
2. 特色ある学校づくりをすすめるために	2
3. 成果と課題	4
II 各学校の取り組み	5
・かめやま西小 エストゥディオ大作戦 ～家庭・地域に支えられ、ともに歩む学校づくり～ 亀山市立亀山西小学校	6
・今日も楽しく明日が待ち遠しい学校づくりプロジェクト ～地域の中で生き生きと学び豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成～ 亀山市立亀山東小学校	8
・地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～ 亀山市立昼生小学校	10
・地域の中で、みんなで生き生きと学べ！！川崎っ子の育成 亀山市立川崎小学校	12
・生きてはたらく力の育成 ～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～ 亀山市立野登小学校	14
・であい、ふれあい、そして 未来へ ～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～ 亀山市立白川小学校	16

・つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子 亀山市立神辺小学校	18
・笑顔いっぱい！ 進んでチャレンジする井田川っ子の育成 亀山市立井田川小学校	20
・みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成 亀山市立亀山南小学校	22
・じぶんで なかまと ふるさとから 夢豊かに学ぶ 関っ子 ～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかり、 意欲的に活動する子の育成～ 亀山市立関小学校	24
・「加太を大切に思う子の育成」 ～子どもたちが生き生きと活動するために～ 亀山市立加太小学校	26
・地域を支え次代を担うたくましい人づくり ～地域とともに生徒が育つ学校をめざして～ 亀山市立亀山中学校	28
・「学校・保護者・地域が一体となった人づくり ～心豊かにたくましく～」 亀山市立中部中学校	30
・幸せ関中学校計画 ～子ども達の夢を叶えるために～ 亀山市立関中学校	32

I 特色ある学校づくりにむけて

1. 特色ある学校づくりとは

特色ある学校づくりを進めることの意義は、令和4年3月に策定された「亀山市学校教育ビジョン」の中に基本的な考え方として次のように示しています。

子どもたちの多様な学びと育ちを支えるため、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進が求められています。グローバル化が進展する一方で、地域活性化の取組が進められており、子どもたちに郷土のよさについて誇りをもって語るができる力とともに、地域への愛着や関心をもち、地域の活性化に寄与しようとする意欲や態度を育むことが必要です。また、保護者や地域の方々が学校運営に参画し、ともに知恵を出し合い、その地域ならではの特色を生かした学校づくりを進めます。そして、子どもたちが、豊かな自然や歴史文化に触れながら、ふるさと「亀山」について理解を深め、考え、主体的に地域とかかわる力を育成する取組を推進します。

それぞれの学校においては、その学校にふさわしい教育活動を創意工夫して、特色ある学校づくりの実現を目指すことになります。

2. 特色ある学校づくりをすすめるために

(1) 特色ある学校づくりと「学力の向上」

学力の向上を図ることと、体験的な学習や問題解決的な学習を重視して子どもの生き生きとした活動をつくり出すこととは、どちらも重要です。その両方の実現のためにこそ、特色ある学校づくりが求められています。

学校において重要なことは、創意工夫して特色ある学校づくりを進め、こうした学力が確実に身につくようにすることと考えます。

(2) 特色ある学校づくりと「心の教育の充実」

子ども達が豊かな人間性を育てていくことができるよう「心の教育」を充実することは、教育の重要な使命の一つです。「時代を超えて変わらない価値あるもの」を身につける、という確固たる理念に基づいて、具体的な方策の下に進める必要があります。

子どもたちの規範意識を高め、正義感や公正さを重んじる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などを培い、自我の形成と調和の取れた豊かな人間性や社会性の育成を図ることは、これからの学校教育において一層重要視されています。これらの教育活動は、特色ある学校づくりの一つひとつの取組の下に、大きな効果が期待できるものと考えます。

(3) 特色ある学校づくりと「社会に開かれた教育課程」の実現

特色ある学校づくりを進めるにあたっては、地域や学校、子どもの実態や願いから、子どもの学びを考えることが重要です。

保護者や地域の人々の意見や考えを学校の教育に反映させるとともに、地域的人的・物的資源を活用したり社会教育との連携を図ったりしながら、学校教育を学校内に閉じずにその目指すところを社会と共有・連携しながら「社会に開かれた教育課程」を実現させることが必要です。

こうした地域の実態等に即した地域と結ばれた特色ある学校づくりを通して、子どもの成長とともに、地域の発展や活性化も期待できるものと考えます。

(4) 特色ある学校づくりと「総合的な学習の時間」

特色ある学校づくりを進めるうえで、特に「総合的な学習の時間」において、各学校が創意工夫を生かした学習活動を積極的に展開することが重要となります。

学習テーマ、指導体制や学習活動、カリキュラム編成等、様々な視点からの特色が期待されますが、創意工夫点がはっきりしていて、子どもの学習状況が具体的に分かることが重要になると考えます。

(5) 特色ある学校づくりの方策

特色ある学校づくりへの方策は次のような例示にもあるように実に多様ですが、特色を出すことだけを目的にせず、その目的を明確にしながら、学校として統一のある、しかも一貫性をもった取組を進めていく必要があります。

また、具体的な方策は実効を挙げているかを限定的・具体的な目標（何を、いつまでに、どこまで）を設定しながら自己点検・自己評価するとともに、外部評価を積極的に取り入れ、その評価結果を保護者や地域の人々と共有することにより、特色ある学校づくりの取組や学校教育全体の改善につなげることが可能となります。

- 「総合的な学習の時間」の構築
- 授業の1単位時間や授業時数の運用（時間割の弾力的な編成）
- 目標や内容を2学年まとめて示した教科の指導計画
- 体験的な学習や問題解決的な学習の重視
- 個に応じた指導の充実
 - ・ 個別指導やグループ指導
 - ・ 補充的な学習や発展的な学習
 - ・ 教師の協力的な指導
- 家庭や地域社会との連携や学校相互の連携や交流 等

3. 成果と課題

今年度の各校の取組から、以下のような成果と課題が挙げられます。

(1) 成果

- 新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、各校において、学校運営協議会を軸とし、家庭や保護者や地域の方々と協力しながら、できることは何かを考え、創意工夫しながら教育活動を進めることができました。
- 1人1台タブレット端末の効果的な活用、日々の授業改善や少人数指導、チームティーチングによるきめ細かい支援、学力保障のための補充学習、学習支援ボランティアやスクールサポートスタッフ等の人材の活用などを通して、学習の基礎・基本の定着や読書活動の推進など、各学校の実態に合わせた学力向上につながる取組が展開されました。
- 地域の歴史や産業を学ぶ中で新しい発見ができ、子どもたちの地域への関心が高まっている。また、学びを通して、保護者や地域の方々とのつながりが深まった。
- 定期的な通信の発行と学校ホームページの更新と効果的な編集により、学校の取組や姿勢、考え方を保護者や地域に向けて発信することができました。また、学校運営協議会の取組を広く伝えることができた。

(2) 課題

- さらに、地域の人・もの・ことを活用した教育活動を推進するとともに、地域関連学習を含めた総合的な学習の時間のカリキュラムを縦の学年系統と横の教科横断の観点から見直し、子どもたちの主体的な学びを促進していく必要があります。
- 講師やボランティアとして関わっていただく保護者や地域の方が限られて方になっているので、負担軽減も考慮しながら、幅広く人と関わる機会を設ける必要がある。

Ⅱ 各学校の取組

Uniao de culturas 大作戦 ウニアウン ジ クートウーラス ～家庭・地域に支えられ、ともに歩む学校づくり～

※ウニアウン ジ クートウーラスとはポルトガル語で「文化の交わり」のこと

亀山市立亀山西小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、家庭・地域とともに歩む活気ある学校」をつくるために、学校運営協議会を中心とした保護者・地域との連携と協働による特色ある教育活動をすすめた。本年度は次の3点を行動計画の重点目標として設定し、取り組んだ。

- (1) 子どもの学ぶ力・共感する力の育成（すべての子どもの学びを支える教育の推進）
- (2) 学校と家庭・地域・教育機関との連携推進（校区の教育資源を最大に生かした教育の推進）
- (3) 感染予防を重点とした教育活動の推進

2 具体的な実践

(1) 子どもの学ぶ力・共感する力の育成

① 学力保障のための補充学習「パワーアップタイム」

月曜日の6限目に、「パワーアップタイム」を実施した。多くの教師が指導に関われるように、校時と時間割を工夫した。また、習熟度に応じて指導できるよう、計画的な運用を行った。

② 子どもが意欲を高めるための新たな体験活動

コロナ禍の中、学校で子どもたちが豊かな体験をし、人との関りを大切にしながら活動できるよう、新たな体験活動を取り入れた。



ホンダヒートラグビー体験



警察音楽隊による交通指導



能鑑賞と能体験

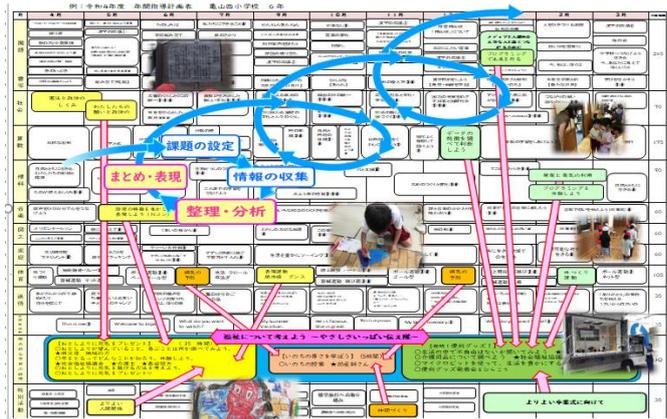
③ しろやま集会を活用した子どもを主体とした活動

前期児童会役員が企画し、後期児童会役員と協力して、「にしまる救出大作戦」という全校宝探しゲームを行った。児童会役員の「みんなで何か楽しめることを行いたい」という思いを具現化する行事となった。行事の運営をするにあたり、児童の力を最大限に発揮できるように、学校運営協議会と保護者の方々に協力を依頼した。また、「次はこんなことをしたい。こんなふうに工夫したい。」といった児童の声も聞かれた。児童の自主性や企画力、実行力を育てることに繋がった。

(2) 学校と家庭・地域との連携推進

① 地域の人材や資源を活かした授業実践

地域の方々とつながり、地域の教育資源を最大に活かした教育を推進するために、今年度も昨年度に引き続き、校内研修の研究主題を「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成～魅力いっぱい！わたしたちの地域の人・もの・ことを通して～」とした。昨年度に行った総合的な学習・生活科の年間カリキュラムの再構築をさらに深化させるよう取り組んだ。各学年で地域の教育資源を題材とし、児童にとって身近で魅力ある課題を探求する活動を行った。児童には、自分たちの力で地域をよりよくできるという実感をもたせ、主体的・協働的に学ぶ力の向上に努めた。



学校全体のテーマ:わたしたちと亀山	
1年	「わくわく うきうき にししょうたんけんたい」 4・5・10・11 【地域・いのち】
2年	「町のステキ!たんけんたい」 4・5・10・11 【地域・いのち】
3年	「亀山のことを調べよう～亀山をもっと知り隊～」 2・11・13・14・15 【地域・伝統文化】
4年	「防災について考えよう～みんなの命🔴守り隊」 9・11・13・14・15 【地域・防災・キャリア】
5年	「将来について考えよう～思いよ届け!亀山西小広報隊～」 8・9・11・12 【地域・キャリア】
6年	「福祉について考えよう～よやさしさいっぱいどけ隊♪～」 3・8・10・11・16 【地域・福祉・いのち】

② 家庭、地域との協働活動

本校は、コミュニティ・スクール3年目を迎える。本校の教育活動がより充実したものとなるよう、情報交流と協議の場として、学校運営協議会を月に一回開催している。今年度は、児童会の行事に学校運営協議会の委員の方々初めて参画する場を設け、より協働的な取り組みがすすんだ。

3 成果と課題

【成果】

- ・コロナ禍の中、保護者、地域の方々の協力を得ながら、体験的な教育活動を多く取り入れ、成果を上げることができた。【体験活動で地域の方から教えてもらう学習の肯定的評価 94.4% (児童アンケート)】
- ・「子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり」の実践がすすんだ。【「学校での生活は楽しい」肯定的評価 98.6% 「みんなで何かをするのが楽しい」肯定的評価 98.7% (児童アンケート)】

【課題】

- ・学習指導や生活指導において、一人ひとりに合ったきめ細かな指導をさらにすすめる必要がある。【「一人ひとりに合ったきめ細かい指導ができています」の肯定的評価が 77.1% (保護者アンケート) と他の評価に比べて低い】



地域の中で生き生きと学び豊かな心をもって
よりよく生きる子どもの育成
地域「人・もの・こと」に学び、
地域とともに歩む学校づくり～

亀山市立亀山東小学校

1. 特色ある学校づくりの概要

本校では、「地域の中で生き生きと学び 豊かな心をもってよりよく生きる子どもの育成」の実現のため、本年度は次の3点を柱に特色ある教育活動をすすめた。

- ①主体的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着
- ②仲間とともにつながり合い、高まり合う学級づくり
- ③保護者・地域とともにある学校づくり

2. 具体的な実践

(1) 主体的・協働的な学びを育む授業改善と学力定着の取組

本校では、ゲストティーチャーや体験活動を通して児童の主体性や社会性の育成に取り組んだ。本物に出会う、触れることは、学んだ学習内容をより深め、新たな学習に向けた意欲を生み出した。



3年陰涼寺山について学ぶ



4年福祉体験



5年稲刈り体験



6年生起業体験

また、授業での約束を決め、児童に授業規律が身につくように、話の聴き方、発表の仕方、姿勢、声の大きさなど“学習の約束”を教職員が定期的に検討し、指導と改善を図った。朝の学習の時間や“いえ学”を設定、タブレットのeライブラリ等も活用し、学習内容の補充と定着に取り組んだ。また、サマースキルアップ、スキルアップタイムを実施して、基礎基本の定着を図った。

(2) 仲間とともにつながり合い、高まり合う学級づくりを進める取組

各学年の発達に応じて人権学習(人権宣言や人権集会の取組)や、いじめなどの身近にある差別について話し合い活動や学年集会を開催した。いじめ防止月間(11月)には、とちの木集会で、全校SST(ソーシャルスキルトレーニング)「あたたかいメッセージを教室いっぱいにしてしよう」



児童会による「あいさつ運動」



に取り組んだ。また、年間を通して、児童自らが“より良い学校生活”を送るため、児童会を中心に、毎月目標(あいさつ・ろうか走りをなくそう等)を決め、各学級で取り組みを進めた。全校児童が、学校生活の充実と向上を図り、自分たちの努力が目に見える形で表され意欲が高まるよう、取組目標が達成できた学級に「グ

ッジョブカード」を配り、とちの木集会で表彰した。

(3) 保護者・地域とともにある学校づくりを進める取組

本校では、新型コロナウイルス感染対策を行いながら、地域の“人・もの・こと”を活用した下記の学習を実施し、子どもたちの地域への理解を深め、地域への愛着を育んだ。

	地域関連学習		地域関連学習
1年	3園交流(年長児を招いた秋祭り) 亀山公園・歴史博物館への校外学習 陰涼寺山たんけん(秋見つけ等)	4年	総合環境センター授業、第2水源見学 プログラミング学習(亀山高校) 亀山トレエンナーレ参加 認知症サポーターキッズ講座(社会福祉協議会)、 新亀山市立図書館授業
2年	町たんけん(東町商店街) 亀山公園・歴史博物館への校外学習 陰涼寺山たんけん(秋見つけ等)	5年	稲刈り体験・農業機械見学(地域の方) 3園交流(東幼・愛児園・第2愛護園) 多文化共生(外国につながる地域の方)
3年	陰涼寺山について(地域・歴史博物館学芸員) 平和学習(歴史博物館) 社会科町調べ(亀山高校屋上から)	6年	ネットモラル学習(亀山高校) 租税教室(鈴鹿税務署) 東っ子まつり(起業教育:地域の方々)



1年 3園交流 秋祭り

2年 まち探検

3年 歴史博物館平和学習

4年 亀山トリエンナーレ

←5年

3園交流

6年→

東っ子まつり

3. 成果と課題

【成果】

・制限ある中においても様々な学びを工夫することで、充実した教育活動を行うことができた。研究領域“生活科、総合的な学習”では、地域の“人・もの・こと”を活用した地域関連学習を充実させることができ、新たな活動の広がりにもつながった。

【児童アンケート: 「がっこうがたのしい」 肯定的意見 93.5% 「なかのよいともだちがいる」 肯定的意見 97.0%(R4)】

【保護者アンケート: 学校は地域の“人・もの・こと”を活用した学習に努めている。 肯定的意見 96.7%(R4)】

・特色ある教育活動や児童の様子を学校たよりやホームページ等で情報発信することにより、学校教育活動への理解と共有を図ることができた。

【保護者アンケート: 学校は、ホームページ等を通じて、活動の様子を伝えることに努めている。 肯定的意見 99.2%(R4)】

【課題】

・地域関連学習を含めた総合的な学習の時間のカリキュラムを縦の学年系統と横の教科横断の観点から見直し、今後も子どもたちの主体的な学びを促進していく必要がある。

・今年度新たにアウトメディア週間に取り組んだが、早寝早起きやテレビ・ゲームに関する約束等についてのA評価が40%を切っている。子どもたちの生活習慣確立に向け、引き続き家庭と連携して取組を進めていく必要がある。

地域とともに歩む昼生っ子 ～地域の核となる学校をめざして～

亀山市立昼生小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

本校では11年前より「地域とともに歩む昼生っ子」をテーマとして地域との連携を重視した特色ある学校づくりを展開している。取組の柱は、以下の3点である。

(1) 地域との連携を強化し、学校・家庭・地域が一体となった学校づくりを推進する。

＜地域とともに歩む学校づくり＞

(2) 学ぶ意欲の向上に努め、学習規律・学習習慣の定着及び授業改善により、学力の向上を図る。

＜確かな学力の育成＞

(3) 基本的な生活習慣・社会的規範意識を育み、ともに高まろうとする仲間づくりを進めるとともに、子どもたち同士のつながりを深める。 ＜豊かな心の育成＞

2 具体的な実践

- (1) ＜地域とともに歩む学校づくり＞、(2) ＜確かな学力の育成＞および
(3) ＜豊かな心の育成＞

「地域で活動している方々をゲストティーチャーとして迎え、子どもたちの学ぶ意欲の向上に繋げるとともに、地元の方々にも学校教育、子育てに関心を持ってもらうこと」をねらい、令和3年度より「地域の先生(ゲストティーチャー)人材バンク」を昼生小学校運営協議会で作成してきており、現在も随時追加、拡張している。(左下【表①】参照)



このリストを手掛かりに、各学年が、各教科・領域等の年間計画と照らしあわせ、地域で活動する方をゲストティーチャーに迎え、学習を進めることができるシステムとなっている。(【表②】参照)

分野		学習内容	三寺地区		中庄地区	
大区分	小区分					
環境	農業	米作り	○	○	○	○
		野菜作り				
	花・花壇作り					
	環境保全	中ノ川の生き物・水質				
里山の保全活動						
野生獣の現状と対策						
安全	防災	自然災害から身を守る				
		消防団の活動				
	交通安全	登下校の見守り活動				
福祉	福祉	福祉活動全般				
		民生委員・児童委員の活動				
		友愛活動			□	□

【表①】(様式を一部抜粋)

地域の先生(ゲストティーチャー)の招聘(案)

月	9	10	11	12
1年生	さつまいも堀			
2年生	さつまいも堀			
3年生	町のくらしを守る人(消防団、駐在所)			
4年生				
5年生	稲刈り	農家の夢・願い おはぎ作り	精米	しめ縄づくり
6年生		昼生地区の歴史	友愛活動の話(福祉部、主任児童委員・民生委員)	

【表②】(二学期分を抜粋)

以下に、地域の方々との学習を進めた実践例を紹介する。

<友愛活動～独居高齢者宅訪問～>

昼生地区まちづくり協議会に福祉部があり、地域の高齢者の健康対策や高齢者の居場所づくりについているるなことを企画・運営している。福祉部から、ゲストティーチャーとして来校いただき、昼生地区の高齢化についてご講演いただいた。



かつては、大家族の中で高齢者も過ごしたのだが、若年齢層の地区外への流失が続く今日は、高齢者の見守りを地域ぐるみですることがとても大切であると6年生の児童は



学んだ。その後、昼生地区に住む一員として、独居高齢者の方々の自宅を訪問し、言葉がけをしながら家庭科の時間を中心に作成した手作りプレゼントを渡し、地区に住む高齢者との繋がりを築く活動を行

った。高齢者の健康対策や高齢者の居場所づくりのために活動している民生委員さん等の姿を、体験的に知ることができる学習の機会となった。また、児童が住民として地域に貢献することを通じて自己肯定感を高める機会となった。

3 成果と課題

- 【成果】
- ・地域のゲストティーチャーによる授業は、実際に活動をしている人のお話を聞くことができ、子どもたちにインパクトがあり、とてもよい。
 - ・子どもたちと地域の人が、お互いの顔が見え、繋がっていける。昨年度から取り組んでいるあいさつ運動との相乗効果により、より実効性あるものとなっている。
 - ・児童アンケートで、「おうちの人や地域の人にあいさつしている」の項目で、肯定的回答が100%となっている。
 - ・地域でがんばってみえる人の姿に出会い、学習意欲が向上するとともに、児童自身が住民として地域に貢献することを通じて、自己肯定感を高めることができている。
 - ・友愛活動という1つの活動を通して、<地域とともに歩む学校づくり> <確かな学力の育成> <豊かな心の育成>に繋げることができた。
- 【課題】
- ・例えば、福祉学習は3年生と6年生で、学級園での作物づくりは低・中学年で行っているが、それぞれ同じ地域のゲストティーチャーに依頼している。無理なく負担にならないように活動していただくためにも、いろいろな人に関わってもらえるようになることよい。



～地域の中で、みんなで生き生きと学べ！川崎っ子～

亀山市立川崎小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校」をつくるために、「保護者・地域との連携と協働の推進」と「豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造」を柱に、特色ある教育活動をすすめた。

2 具体的な実践

(1) 保護者・地域との連携と協働の推進

①川崎の歴史・文化・人材を最大限に活用した地域関連学習の充実

川崎小学校区は、地域の教育資源「ひと・もの・こと」が非常に豊かな校区である。これらの教育資源を活かした地域関連学習を通して、子どもたちに地域への愛着と誇



1年生活科 むかしあそび体



2年生活科 まちたんけん



3年総合 しそジュースづくり



4年総合 かんこおどり



たんぼぼ学級 コミュニティ



5年総合・社会科 稲刈り体



6年総合 49 災の聞き取り



教職員研修 地域教材のフィールドワーク

②保護者・地域とともに創り上げる学校諸活動と地域行事等への参加、貢献

地域の人とのふれあいや地域での様々な体験等を通して、豊かな人間性・社会性を育てている。



川崎ふれあい文化祭のオープニングで、かんこ踊りを披露

たくさんの方が見に来ていただきました。元「かんこ踊り保存会」の方がほら貝を吹いて盛り上げてくれました

売り上げは、社会福祉協議会に寄付しました。



川崎ふれあいフェスタで、地域の方と一緒に育てた里芋を販売

いらっしゃいませ！里芋いかがですか？



フレンドリークラブが3年ぶりに再開



NHK全国音楽コンクールへ出場
三重大会出場 金賞
東海・北陸大会 奨励賞賞



地域、PTA、川崎駐在所に協力していただいて、防犯訓練、交通安全教室を実施

③地域共有ゾーンの有効活用

本校には、ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンが設けられており、子どもたちが地域の方々とふれあい、そして学ぶ場、また、地域の方々の活動の場として活用している。



くろぼくふれあい活動「花あそび～フラワーアレンジメント～
「花壇及びフレンドリー農園整備」

放課後子ども教室
「ペーパークラブ」

PTA 主催の「もらってください市」

新1年生保護者を対象としたすかばり作り教室

④学校情報の積極的な発信と学校公開

新型コロナウイルス感染症の予防対策を行いながら、人数制限や参観時間の指定など実施方法の工夫により、授業参観を学期1回、フリー参観2日、「川崎ふれあいフェスタ」を実施することができた。また、学校だより、学年通信に加え、学級だよりを発行。子どもたちの日常の様子や担任の学級経営についての思いを伝えることができた。



(2) 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動の創造

①川崎小学校十か条に基づいた生徒指導

十か条から毎月の児童会目標（生活目標）を設定し、各学級で取組を進めている。

②学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業改善

研修主任による提案授業や各学年に求める「対話の姿」の具体化により、めざす授業の形について共通認識をもって授業づくりに取り組むことができた。



3 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、活動に制限が生じる中でも工夫を凝らし、保護者、地域と連携・協働して教育活動を実施することができた。今年度より研修のテーマを地域学習の授業づくりとし、それぞれの学習の意義を捉え直し、教科の学習との関連性を意識した生活科、総合的な学習のカリキュラムの作成、実践をすすめた。これまで大切にしてきた本校の特色ある教育活動の継続に加え、新たな学習、活動へと広げることができた。限られた授業時数の中で子どもたちの主体的な学びを大切にしていくために、よりカリキュラムマネジメントを進めていきたい。

地域とともにある学校づくり（保護者 A 評価 68.4% 地域 A 評価 72.7%）地域への関心（児童 A 評価 67.6%）

基礎学力向上（保護者 A 評価 35.1% 肯定的評価 89.2%）

対話的授業改善「聞く」（児童 A 評価 62.2%）「伝える」（児童 A 評価 39.1%）

- 地域や保護者に開かれた学校づくりを一層すすめていく。保護者や地域に参観、参加していただく場はある程度作ることができているので、参加、参観の呼びかけや、HP やたよりによる学習活動の周知に力を入れていきたい。情報発信（保護者 A 評価 68.8% 地域 A 評価 70.5%）

生きてはたらく力の育成 ～地域とともに仲間とともに野登っ子パワーアップ大作戦～ 亀山市立野登小学校

1. 特色ある学校づくり推進の概要

本校では、「地域との関わりや人とのふれあいを通して、思考力・判断力を高め、伝え合う力を身につける」ことを活動のめあてとし、以下の2点を中心に取り組んだ。

- (1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり
 - ・野登の自然や文化、産業に触れる「ふるさと学習」
 - ・地域の文化や特色に触れ、人との交流を通して地域の良さを学ぶ
 - ・学びを発表する場の設定
- (2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり
 - ・本に慣れ親しむ習慣づくり ・「話す力・書く力」の育成
 - ・授業力の向上 ・思考の手立て ・手順の確立

2. 具体的な実践

(1) 地域資源（ひと・もの・こと）を活用した「学びの意欲」づくり

本校では、学校運営協議会を軸とし、地域や保護者と連携を図りながら、野登の自然や文化を学習に積極的に取り入れ、少人数の良さを生かした教育活動を展開している。

1・2年生は、池山公民館で地域の方に教わりながら丸太切りや、どんぐりやまつぼっくりなどの自然素材を使って作品づくりをした。2年生は、昨年経験もあるので「1年生のころよりも早くできてうれしかった。」と自分の成長に気づくことができた。その他にも2年生は、お店やお寺の見学、穴虫の郷へ自然観察に行き、そこで案内をしてくれた方の優しさに触れたり、地域の方が見守り隊として自分たちの安全を守ってくれていることを知ったりした。3年生は、お茶つみ・お茶の入れ方を体験した。4年生は、安楽川の生き物調べを行い、地域の自然の中で様々な生物と共生していることを学んだ。野登の自然環境を守っていくために、自分に何ができるかについて考えた。5年生は、米作り体験を通して、昔の人の米作りに関わる工夫を知るとともに、現在の農業の仕組みについても教わり、これから10年先の野登の農業について考えることができた。



茶摘み



丸太切り



稲刈り

学年	ふるさと学習・活動内容
1年	自然素材で工作
2年	自然素材で工作、まち探検、穴虫の郷・宗徳寺見学
3年	茶摘み・お茶の入れ方体験、でか書道
4年	安楽川の生き物調べ、地域の伝統文化（かんこ踊り、いのこ）
5年	米作り（田植え・稲刈り・はさがけ、脱穀、精米）
6年	野登和紙づくり・卒業証書作成、水墨画制作、ろうけつ染め体験、地域の文化財調べ

6年生は、16年前から継続して行っている「みつまた和紙づくり」に取り組んだ。この取組を始めた頃は、地域に出かけて和紙づくりを行っていたが、現在は学校で地域の方やPTAの力を借りて作成している。材料は地域に群生している「みつまた」を使い、より質の良い和紙を作るために毎年地域の方とともに工夫を重ね、改善を加えている。原木の調達やみつまたの皮を煮立てる作業など、子どもたちだけで難しい内容は、まちづくり協議会の方々をはじめとし、みつまたを愛する会、野登ルンビニ園、野登小PTAの方々の力を借りて行った。今年度は、みつまたの枝から皮を剥ぎ取り、和紙に使う必要な本皮を取り出す細かい作業を、6年生の保護者と一緒に行い、卒業書証書となる和紙作りに親子で関わることができた。



(2) 主体的・対話的な「学びの基盤」づくり

児童の表現力・思考力の向上をめざし、校内研修による授業研究や図書館活動の充実を図った。

- ①論理的に「話す・書く」ことに重点をおいた授業や1人1台端末を使った授業を行い、算数科を軸として指導内容や指導方法の工夫について研究を深めた。教師が単元でつけたい力を明確に持ち、単元計画や題材、授業展開を工夫することで、子どもの学習意欲を高め、まわりとの対話によって学びを深めることができた。
- ②「本に慣れ親しむ活動・読書活動年間計画」により、図書館まつりや読み聞かせ等計画的に取り組を進めた。また、学校司書や学校図書館活用アドバイザー、読み聞かせボランティアと連携した指導によって、読書習慣や意欲が身につけてきている。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・それぞれの学年で野登の地域資源を活用した学習を行い、子どもたちは地域の産業や文化について新たな発見をするとともに、地域の方とのつながりを深めたり、自分自身を見つめたりすることができた。
 - ・みつまた和紙づくりでは、子どもたちが、みつまたや自身で制作した和紙に対する愛着や和紙づくりに関わっていただいた方への感謝の気持ちをもって取り組めるよう、活動計画を見直しながら内容を検討し、進めることができた。
- <地域・保護者アンケート>「学校は、学校行事などを通して、保護者や地域住民と連携した教育活動に取り組んでいる」(肯定的回答 地域:85.7% 保護者:93.4%)

(2) 課題

- ・学校からの情報発信を継続するとともに、子どもたちにつけたい資質・能力を保護者や地域の方と共有し、連携・協働しながら取組を進めていく必要がある。
- ・みつまた和紙づくりでは、学校・保護者・地域がそれぞれの立場でどのように関わることができるかを考え、協働して取り組むことで、6年生の学びの場とともに、地域に開かれた学校づくり、地域貢献や地域の活性化へつながる活動としていきたい。

であい、ふれあい、そして 未来へ

～ 自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成 ～

亀山市立白川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 本校の現状

① 保護者・地域～地域とともにある学校づくりを進める温かい雰囲気

保護者、地域の方々はお互いが顔見知りで、自治会をはじめ地域の諸団体の活動が盛んである。なかでも「亀山市立白川小学校運営協議会」「白川地区まちづくり協議会」を中心に、地域の核としての学校という意識も強く、みんなで子どもを育てていくという雰囲気があり、学校と地域の結びつきは深いものがある。

② 児童～縦割り班活動などにより異学年集団の強いつながり

45名の児童（特認校制度を利用している児童は11人、令和5年1月現在）の多くが元気に明るく学校生活を送っている。今年度は2・3年生と4・5年生が複式学級となっている。

(2) 取組の柱を中心とした概要～体験活動と交流活動

① 豊かな自然と保護者・地域ボランティアの支援による体験活動

ア 高学年の炭焼き・販売体験、低学年のさつまいも栽培

イ 中学年中心のFBC花壇作りや学級園での栽培体験

③ 自らの生き方を見つめる出会い・ふれあいの場を広く求める交流活動

ア つくしの家（指定障害福祉サービス多機能型事業所）の方々との交流

イ 中学年の年寄り訪問における交流

2 具体的な実践例

(1) 体験活動

稲作体験

・全校で4月に「田植え」、9月に「稲刈り」を行った。地域の方の指導のもと、保護者にも手伝っていただきながら活動することができた。収穫したお米で、もちつき大会も行い、みんなで収穫したお米をおもちにして食べた。

さつまいも作り

・地域の方の畑で、1・2年生が行った。6月に「苗植え」、10月には「さつまいも掘り」で収穫した。地域の方に植え方のコツについて指導していただき、収穫したいもは、給食で提供されたり、お世話になった地域の方と一緒に焼きいもにしたりして食べた。

そば作り

・地域の方の畑をお借りして、3・4年生が8月に「そばの種まき」、10月に「そば刈り」を体験させていただいた。



児童は、地域の方の指導のもと、初めて見るそばの種や花に驚きながら、そば作り体験をさせていただいた。

炭焼き

・5・6年生が、「炭焼き」体験と、作った炭を販売する起業体験を行った。白川小の炭を販売するためにパッケージを作成し、炭の使用目的や有用性の説明書を入れ、販売を行った。実際は地域の方が中心になって炭焼きを行い、子どもたちは炭焼きの木や竹の搬入や炭の搬出、箱詰めやパッケージングを行った。商品にして地域のうどん屋さんには置かせてもらったりJAや郵便局にポスターや商品見本を置かせてもらったりした。昨年度に引き続いて地域の方に協力をいただいて、商品の製造から販売まで取り組むことで、子どもたちとの交流が深まった。商品を地域に置くことで、コロナ禍で活動が少なくなる中、学校の活動について発信もできた。



(2) 交流活動

お年寄り訪問

・3・4年生は、民生委員さん福祉委員さんとともに、「一人暮らし・二人暮らしのお年寄り訪問」を実施した。学校で育てた花と、児童が書いたお手紙を直接お年寄りのお宅を訪問しお渡しした。お年寄りの方たちは、児童の訪問をととても歓迎してくれて、お互いに会話等の交流を楽しむことができた。



つくしの家との交流

・5・6年生は「指定障害福祉サービス多機能型事業所つくしの家」とリモートでの交流を行った。5・6年生は、合奏を披露し、「つくしの家」の方にはダンスを披露していただいた。リモートでの交流ではあるが、お互いが「がんばってきたこと」を表現し合うことができた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・地域の方々の協力により、児童は様々な活動を体験することができている。学校評価アンケートの「学校は、体験活動・児童集会等で、子どもの創意を引き出し、達成感が味わえる活動を行っている。」の質問に対する保護者の肯定的評価は96%だった。

(2) 課題

- ・交流活動・体験活動を制限・自粛する中、継続的に取り組める活動方法を検討する必要がある。今後も、地域の方との交流を通して、地域への学校の教育活動の発信や、児童の地域を大切にする心、勤労生産を大切に思う心の育成につなげていきたい。

つながろう 笑顔いっぱい やなぎっ子 亀山市立神辺小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域の環境や産業、歴史に関する達人を授業やそのほかの活動等の学びの場に招聘し、体験的で創造的な活動を積極的に展開するとともに、地域の方々やゲストティーチャー等との交流や親睦を深めながら、社会に開かれた教育実践を行う。

(2) 児童の学力の実態に応じて、児童一人ひとりに対応したきめ細やかな授業展開を大切に進める。わかる授業づくりを推進し、児童が「わかった できた」という喜びを学習への意欲「楽しいな」につなげる。

(3) 一人ひとりの児童が、プログラミング的思考を用いて学習課題に向かう過程において、解決の道筋を「見える化」することで明らかにし理解を確実なものにする。また、協働して学習課題を解決する活動により、表現力・見通しをもった思考力の伸長を図る。

特に、今年度はプログラミング的思考の育成と同時に、各教科の授業のねらいを達成し、学びを確実にするためのプログラミング的思考の活用についても研究をすすめる。

2 具体的な実践例

(1) 地域人材・教材を活用した体験的な学習

神辺小学校にある地域教材・地域人材を積極的に生かし、体験的な学習を実施した。3年生では、社会科の学習の一環として、茶摘み体験をし、地域の方と触れ合いながら学習を進めることができた。また、2年生では、生活科で町たんけんに出かけ、地域の活動（災害時の対応）について教えていただいたり、地域の歴史に触れたりすることができた。

栽培活動（委員会活動等）では、地域に方々と共に活動を行い、これらの活動を通して、地域の人々や環境を大切にしている心情が育ってきた。

(2) ティームティーチングを中心に効果的な算数指導を改善

算数科の授業では、2・3・4・5年生で複数教員による指導を実践している。ティームティーチングの授業を行うことによって、多角的・多面的に児童理解を行うことができ、個に応じた多様な指導・学習形態をとることができた。また、集団の学習の中で児童へのきめ細かな支援を行うことができた。



2年生 町たんけん



3年生 茶摘み体験

(3) プログラミング的思考を取り入れた授業づくり

『プログラミング的思考を利用して教科の目標を達成する授業づくり』

昨年度の課題より、今年度はプログラミング的思考を取り入れた授業が教科目標を達成するために効果的に働くようさらに研究を進めた。子どもの思考を視覚的に捉えるためフローチャートを活用し、児童の考えを表現させる活動を取り入れ授業を行った。また、学習課題解決のため、グループで話し合う場を設定することで協働作業の中から課題解決力を高めるようにした。

『教職員のプログラミング教育の知識・技能向上』

プログラミング的思考を取り入れた授業の手立てとして、本来児童の実態や発達段階に応じて教師自らがツールを選択しながら、授業の中に組み込んでいくことが求められる。しかし、教職員によってツールの活用技術や得意分野に差があるため、校内研修の場で教職員同士の学び合いの場をもつようにした。

【今年度のOJT研修】

- ・フローチャートに関するOJT研修
- ・viscuit（プログラミングアプリ）に関するOJT研修
- ・GarageBand（プログラミングアプリ）に関するOJT研修



フローチャートを活用した授業



GarageBand（プログラミングアプリ）に関するOJT研修

3 成果と課題

(1) 成果

①プログラミング的思考を取り入れた本校の授業について、児童は好感を持っている。

- ・「学校の授業がよくわかる」 肯定的な回答 91%

②少人数指導によって、子どもたちの算数科に関して理解が深まっている。

- ・「ティームティーチングの算数の授業はわかる」 肯定的な回答 98%

③地域交流体験講座や地域教材の学習など通して、地域住民と児童との交流が深まった。地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動により児童の視野が広がっている。

- ・「学校は地域の人材を取り入れようとしている」

地域・学校関係者アンケートで肯定的な回答、地域91% 保護者90%

(2) 今後の課題

- ・地域や外部の人材を積極的に取り入れた活動は、社会に開かれた教育課程の実践においても重要である。今後もより地域と連携しながら、積極的に取組をすすめていきたい。
- ・ティームティーチングに対して、肯定的な回答する児童が大多数を占めている。神辺小学校の算数指導における最も大切な要素であり、保護者の期待も高いことから、次年度においても児童へのきめ細かな支援を継続して行っていきたい。
- ・思考力・表現力を高めるためのプログラミング的思考を取り入れた本校の授業づくりについて、児童は肯定的にとらえている。今後もカリキュラムマネジメントを行いながら、児童の思考力・表現力を高めるよう教科横断的な指導を行っていく必要がある。

笑顔いっぱい！進んでチャレンジする井田川っ子の育成 亀山市立井田川小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 学校運営に関する取組

- ・学校経営ビジョン、学校予算、学力向上推進計画、研修デザイン、いじめ防止基本方針、特色ある学校づくり事業計画及び予算の承認。
- ・コミュニティ・スクール推進構想、学校運営協議会年間計画について、今年度の方向性を意見交換と熟議。
- ・新型コロナ感染防止対策をしつつ、学校行事をどのように実施していくのか、PTAとも連携しながら検討し開催した。
- ・おもな学校行事・PTA行事等について行事終了後、間を明けずに協議会を開催し、意見交換や児童の様子について熟議を行った。
- ・タブレットでの課題学習を体験し、利点や改善点について意見交換。

(2) 学校支援に関する取組

- ・学校ボランティアを募集し、ボランティア組織「井田っ子応援団」の充実に取り組んだ。
- ・「読み聞かせ」「英語」「学習支援」「登下校見守り」について、感染状況に対応しながら、臨機応変な活動を支援した。
- ・学校運営協議会委員が、放課後子ども教室の運営委員を兼ねることとし、放課後子ども教室（「井田っ子スマイル教室」）運営の効率化をめざした。
- ・新型コロナ感染防止を考えて、1・3・5年、2・4・6年と、午前・午後と分けての運動会を開催することとし、学校運営協議会の委員も参観し、すぐ後の学校運営協議会で、子どもの様子や運営について助言を得ることができた。
- ・今年も教職員の過重労働の実態について、意見交換の機会を得た。

2 具体的な実践例

- ・4年生の総合的な学習の中で、亀山防災ネットワークの方に来ていただいて、地域に関連して身近な防災学習を深めることができた。
- ・地元のボランティア団体「どんこネット川合」による5年生の総合的な学習において「米作り」を実施し、田植えや稲刈りも体験することができた。



4年生 防災学習
亀山防災ネットワークの方による指導



20 5年生 稲刈り体験
どんこネット川合による指導



井田っ子応援団
「読み聞かせボランティア」

・「井田っ子応援団」での「英語」「読み聞かせ」「登下校見守り」の活動は、コロナ禍で自粛があった昨年以上に活動することができた。

・「なるほどタイム」として教員が学習補充をしたり、地域の先生による学習支援講座を実施したりし、個別指導による学習の定着や意欲向上に取り組んだ。

- ・今年度の文化講座は、コロナの影響もあったが、回数は、ほぼ計画通り実施できた。参加者も毎回150人程度いる。簡単な調理や工作、茶道、フラワーアレンジ、紙芝居などたくさんの講座を開設し、地域の方による指導を通じて、交流を深めている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・運動会やオープンデーにおいて、協議会委員に児童や学校の様子を参観し、具体的な様子をもとに意見交流を深めることができた。
- ・新型コロナ感染予防で、地域体験活動が減っていたが、放課後子ども教室や井田っ子応援団(学校ボランティア)などと連携し、回数も増え、充実した。
- ・学力定着のための補習や意欲や追求、見通しを持った授業づくりにより、意欲向上になった。「学習内容がわかる」(令和4年度肯定的評価90.9%)「学校生活が楽しい」(令和4年度肯定的評価90.7%)
- ・地域とつながり体験的な学習をできるだけ取り入れることにより、学習意欲が高まり、学びが広がり深まった。「地域の人に学校に来てもらって行う学習は楽しくためになる」(令和4年度肯定的評価95.6%)

(2) 課題

- ・将来の学校・地域像を熟議し、地域とともに目指すビジョンの共有。
- ・井田っ子応援団(学校ボランティア)の拡充と生活科・総合的な学習を軸としたカリキュラムへの有効なコーディネート。
- ・井田川小校区の地域学習人材バンクを設置し、要請に応じて活動する仕組みをつくり、「井田っ子応援団」への参加を目指す。
- ・子ども、家庭支援ネットワークの充実と人権啓発の推進により、多様性を尊重し、共生の視点での学校・地域づくりに取り組む。
- ・井田川小を核とした地域課題の改善と学校教育活動の充実をともに進めることができる取組を模索し、推進する。
- ・教職員の働き方改革につなげる視点での環境整備、行事や活動の精選を進める。



みどりの中で豊かに学ぶ「みなみっこ」の育成

亀山市立亀山南小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 学校行事等の学校運営に地域の教育資源を積極的に活用し、地域に根ざした教育活動を行う。
- (2) 家庭での学習や生活習慣、人間関係などについて質問紙調査等から現状把握、分析を行い、その改善に向けた取り組みを推進する。
- (3) 子どもの可能性を高める体験活動を通して自他を思いやる心や主体的・自立的な態度を育てる。
- (4) 芝生運動場、学校花壇の整備充実を図り、その中で取り組む勤労生産活動や体力向上活動から、豊かな心と健やかな体の育成を図る。

2 具体的な実践

(1) 地域の教育資源の活用と地域に根ざした教育活動

地域主体の行事である「地域ふれあい集会」は、亀山中学校吹奏楽部の演奏やかめやま防災ネットワークより講師をお招きしての防災学習、図書ボランティアの「おはなし隊」による読み聞かせなど、学校運営協議会運営委員会を中心に、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら行った。今年度も参観の制限を行ったが、地域の協力を得て実施することができた。



(2) 子どもの可能性を高める体験活動・自他を思いやる心

活動テーマにある「みどり」は、本校の大きな特色である芝生運動場と花壇がシンボルである。芝生の維持管理は課題となるが、年間を通じて子どものケガは少なく、児童の健康増進と体力向上に繋がっている。

校内花壇や学級園活動、自然に触れる体験活動等につ



いて、地域のボランティアの皆さんと協力しながら、整美栽培委員会を中心としながら全校で取り組み、今年度も立派に咲き誇った。FBC審査において、「内閣総理大臣賞」をはじめ、多くの賞をいただいた。また育てた花を地域の事業所に贈りお手紙等をとおして交流した。

また、6年生が里山学習で保全活動を行ったり、各学年の学級園活動では、自分たちが育てた植物が実を結ぶところを見たりした。花壇や学級園での活動などの成果が形となり、子どもたちの豊かな心の育成に大きな力となっており、地域の方の協力で支えていただいているという実感が持っている。

5年生の保育園交流について、今年度は「なつまつり」や「体験入学」を再開することができ、可能な感染防止対策をとりながら行った。また、運動会練習の応援や運動場の利用、職員どうしの情報交換等が行われ、「途切れのない学び」を意識した取り組みとなった。校内人権フォーラムを高学年が中心となって運営し、自他を思う気持ちを発達段階に応じて考えるとともに、主体的・自立的な態度を養った。



3 成果と課題

【成果】

- ・ FBC 内閣総理大臣賞 他、多数受賞 ・里山での自然保全活動、地域ふれあい集会、苗植え集会、クリーン集会、町たんけん、「おはなし隊」による読み聞かせ等、地域の教育資源を活かした活動 ・QU 調査（年2回）の実施 ・学習ボランティアの協力による放課後の補充学習 ・全国教育美術展 教育委員会賞（地区学校賞）等、計画時の成果指標を概ね達成した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下にあるが、対策をとりながら、体験学習等、対面のできる活動を再開することができた。地域の方や保護者との学校生活での関わりが少しずつ復活し、多くの方に支えられていると子どもたちも職員も実感できた。

【課題】

- ・ 学校評価アンケート（保護者）の肯定的な評価が下がっている部分に対し、保護者の思いを真摯に受け止め、その要因について分析・対応が必要である。主に、授業づくり・仲間づくりに対する不安が大きいと思われるので、調査等を活用しながら、活動の中で取り組む。
- ・ 子どもたちの主体的・自立的な活動をさらに広げられるような活動の推進。
- ・ 芝生運動場が最大限に活かせるような運動場の管理体制（予算取りも含む）の確立。
- ・ 家庭での学習や生活習慣、人間関係などについての現状把握・分析を活かした取組の推進。

じぶんで なかまと ふるさとから 学ぶ 夢豊かに しあわせに ～地域の「ひと・もの・こと」にふれ、みんなでわかる、 自ら取り組む子の育成～

亀山市立関小学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

地域の「ひと・もの・こと」をキーワードにして、みんなでわかり意欲的に活動する子の育成を目指し、「一人ひとりの学びの充実」「地域人材、地域教材の活用」の2つを中心に、下記の取り組みを実施した。今年度はテーマに「しあわせに」を加え、目指すべき子どもたちの姿をより明るく充実したものとした。

「学びの充実と学力向上」

安心して学べる学習環境づくりを構築するために、人権学習を核として、基礎基本の定着を目的に朝の学習活動や読書タイムを進めていく。

「地域人材、地域教材の活用」

伝統文化、地域行事等を通して、同・異年齢交流を進めることで、思いを出し合い、お互いを認め合うなかまづくりの取り組みを行う。

2 具体的な実践例

(1) 「きく」活動を大切にした学びの充実と学力向上

昨年度の取組を継続し、「きく（聞く・聴く・訊く）」活動を大切にした伝え合える授業づくりを研修の中心に据えて、学びの充実と学力向上を図った。GIGA スクール構想による1人1台のタブレット端末を活用したが、そういったツールはあくまで手段として、目的として自他の思いを認め合い、学び合える集団づくりを大切にした。また、伝えるためには文章を正しく読み込むことも不可欠であり、互いの読みを伝え合って深化させる授業づくりを研修し、関中校区の研究発表会でも、その取組を発表した。

また、「みんなの研修は、みんなで作る」ということから「みんくる」をキーワードとして、今年度も自主的な職員間の磨き合いを重視した。Q-U分析を活かした学級づくりも継続し、それぞれの学級の実態と課題を全職員で捉えることで、児童一人ひとりの思いを大切にする取組を推進した。

(2) 「地域人材」「地域教材」の活用

今年度、コロナ禍の状況は時期によって大きく変化した。第8波の影響を受けた時期については感染対策・安全を優先せざるを得なかった。しかし、感染の波の間隙を縫うようにして取組を進めることができたため、昨年度できなかった実践について取り組めたことも多い。関地区では、3年ぶりに決行となったイベントも多く、それに合わせて4年生を対象とした「お囃子体験」にも熱が入った。

例えば「米づくり体験」のように例年通りにおこなったものについても、「お礼の会」では児童はもてなす側に徹し、お越しいただいた「いきいきキッズ応援団」の方に、収穫したお米でできたおにぎりを食べていただいた。



米づくりの学習は、農業体験というだけではなく、植物の成長と収穫の喜びを味わうとともに、教科学習の一環として、命の尊さ、生命尊重についても学習をしている。異世代間交流という意味でも重要な活動と位置付けている。

このような地域の方々と学習や協働作業を行うことは今後も継続し、将来、地域を担い貢献できる子どもを育成したい。



3 成果と今後の課題

(1) 「きく」活動を大切にした学びの充実と学力向上

【成果】

学校評価アンケート結果の中で、保護者の「あなたのお子さんは学校の勉強を理解していると思いますか」に対する肯定的回答が昨年度の84.9%から87.9%に伸びた。家庭学習に関する保護者の肯定的回答も3.6ポイントの上昇がみられた。

【課題】

保護者の回答に反して、児童の学校評価アンケートでは、学習の理解に関する項目が83.6%の肯定的評価と下がってしまった。「伝え合う」授業を大切にしているが、自分の意見を「きいてほしい」という思いが強くても、友だちの意見を「ききたい」という部分がまだ育っておらず、意見の交換による思考の深化にまで至っていないことも一因かもしれない。

(2) 「地域人材、地域教材の活用」

【成果】

学校評価アンケート結果で、生徒・保護者ともに「地域学習の意義」の項については、昨年度と比較すると若干下がったとはいえ、児童は91.9%、保護者は96.8%の肯定的意見があり、高値を示している。

また、学校運営協議会を通じて呼びかけた結果、1月末までで44人のボランティア登録があった。校内消毒ボランティア12人、図書館整備ボランティア2人（のべ69回）、読み聞かせボランティア2人（のべ31回）、米づくりボランティア6人（のべ8回）、花づくりボランティア8人、家庭科ボランティア5人と、さまざまな形で支援していただけた。特に家庭科ボランティアについては、ミシンの扱いなど、新しい形で支援していただいた。

【課題】

コロナ禍の影響について、今年度は大きな波があり、昨年度実施していた消毒ボランティアの活用について、長期間にわたって見合わせる事となった。次年度、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに関わって、今後のことは検討すべきである。

関認定こども園アスレや加太小学校との交流活動については、時期を見ながら実施したものの、加太小1年生との交流の時期には新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行があり、せっかく計画していながら中止という判断を下した。

小1プロブレムや中1ギャップの軽減のためにも、認小中間の交流は今後も重要視していく。また、亀山高校からインターアクト部の「関宿クイズラリー」について協力依頼の打診があり、可能な形を模索していきたい。

「加太を大切に思う子の育成」

～子どもたちが生き生きと活動するために～

亀山市立加太小学校

1 特色ある学校づくり推進事業の概要

～小規模学校という特性や加太地区の特性を生かした3つの重点項目～

- (1) 地域よさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成
- (2) 地域活力との協働
- (3) 生活習慣・学力の定着及び向上

2 具体的な実践（【】はアンケート結果、☆は目標達成）

- (1) 地域のよさに気づき、地域を大切に思う心（郷土愛）の育成

① ふるさと学習の推進

○地域教材（ひと・もの・こと）の開発

「大和街道」地域史跡学習や加太小の昔の様子調べ等。（低中高学年で年間2教材実施☆）

○児童集会・授業参観での学習内容発信

児童による「ふるさと学習」発表。

【ふるさと学習児童肯定的回答 100%☆、保護者肯定的回答 85%☆、地域肯定的回答 94%☆】

○多羅尾小オペレッタ視察（コロナ禍のため学校運営協議会3名で視察）

- (2) 地域活力との協働

① 地域体験生産活動と食育活動の推進

○1・2年さつまいも作り⇒「スイートポテトづくり」、4年梅栽培⇒「梅ジュース」、5年(全校)もち米作り⇒「全校もちつき大会」、6年自然薯作り、「うどん作り」【地域体験生産学習 児童肯定的回答 100%☆、保護者肯定的回答 85%、地域肯定的回答 94%☆】



《自然薯づくり》



《梅収穫体験》



《田植え体験》



《稲刈り体験》

○お世話になった地域の方々へのお礼

3学期にお礼の会（ふるさと学習成果等発表会）を行った。日常の学習の成果（ふるさと学習）を全校児童や保護者、地域の方の前で発表することにより、自己表現力、学級の集団性を高めるとともに、学習や見守り活動など日頃お世話になった地域の方を招待し、感謝の気持ちをこめて発表する機会とした。



《もちつき体験》

12月には全校もちつき体験を開催した。お世話になった方々を招待し、収穫の喜びと収穫までの指導に対し、感謝の気持ちを伝えることができた。

②地域への情報発信

○学校だよりや行事案内回覧、つむぎ通信全戸配布（校長室より）、ホームページの随時更新による発信等。

【学校は、家庭との連絡を密にしている保護者肯定的評価 93%】

③学習ボランティアの活用

○地域教材（米、梅、自然薯、さつまいもの他、花いっぱい活動など。）【年間 20 名☆】



《花いっぱい活動》

(3) 生活習慣・学力の定着及び向上

①効果的な複式指導の在り方及び授業改善について

○豊かな対話をめざした(国語)の授業研究

三重大学の守田教授、亀山市教育委員会三田指導主事を招聘し、指導を仰ぎ授業力向上を図った。

【授業がわかる 児童肯定的回答 93%、保護者肯定的回答 74%】

②生活習慣の向上・家庭読書の啓発

○朝の読書タイムの設定。年間目標読書量を設定した意欲付けの取組。

【本を進んで読もうとしている児童肯定的回答 86%】

○チェックシートの活用3回、保健だよりでの結果の報告及び啓発。

③たてわり班活動の充実と仲間づくりについて

○学級レポートの交流とQU調査の活用

【学校は楽しい 児童肯定的回答 79% 保護者肯定的回答 85%】

3 成果と今後の課題

<成果>

- ・ コロナ禍の制限がある中、少人数の良さを生かし、ふるさと学習や生産活動を通じて、保護者・地域住民の協力を得ながら、充実した特色ある教育活動を行うことができた。



《運動会・縦割り班活動》

- ・ 地域の歴史や産業を学ぶ中で新たな発見ができ、地域への関心が高まった。また、学びを通して地域の方とのつながりが強まった。【ふるさと学習は有意義: 児童肯定的回答 100%☆、保護者肯定的回答 85%☆、地域肯定的回答 94%☆】

<課題>

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で「社会に開かれた教育課程」を実現するために、教科等横断的にめあてをもって、計画の見直しを加えながら、児童の主体的な学びと協働的な学びをさらに促進する。
- ・ 加太小学校の特色豊かな学びの存続と、地域の核として学校が存在することで地域が活性化し、地域住民の結びつき、交流の場が確保される。加太小の将来も見据えた議論を保護者や地域の方々とさらに深めていく。



1 特色ある学校づくり推進の概要

- (1) 生徒会の自治活動の活性化として、学年や学校行事の企画・運営、姉妹校との交流、あいさつ運動等の委員会活動の充実に取り組む。
- (2) 学校の課題やめざす生徒像を地域や保護者と共有し、地域とつながり続ける体制づくりを推進する。
- (3) 「主体的・協働的な生徒の育成～意欲の高まる指導方法の工夫を通して～」を研究主題とし、タブレットを活用した学習活動の工夫、学習習慣の育成、家庭学習の定着、朝読書や図書館の利用など、確かな学力の向上に努める。
- (4) 人権、平和、福祉、いのち（性・安全）に関する学習を行い、仲間を大切にする思いやりにあふれた心の育成に努める。
- (5) 地域行事への参加、環境美化活動、福祉施設との体験交流、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域と学校の連携を図る。



2 具体的な実践

(1) 生徒会の自治活動の活性化



「楽輝（ラッキー）亀中～みんなが笑いあえる亀中へ～」を今年度の生徒会目標に掲げ、生徒が主体となった活動に取り組んだ。

生徒会では、「頭髪」に関する校則の改正、あいさつ運動やピンクシャツ運動に取り組んだ。生徒集会では、姉妹校交流の還流報告などを発信した。また、体育祭(6月)・文化祭(10月)では、生徒会本部・学年評議会・各委員会を中心に役割分担や企画・運営をし、全校開催に向け取り組んだ。

① 姉妹校交流

亀山中学校では、平成10年より岡山県高梁市立高梁中学校と姉妹校交流を行っている。今年度は、8月に高梁中を訪問する計画で準備を進めていた。直前になりオンラインでの開催に変更となったが、お互いの生徒会の活動や行事の紹介、高梁市のまちバーチャル探検を行い交流を深めることができた。

② 文化祭

亀山市文化会館を会場に全校で開催、各学級の合唱発表、パソコン部作品発表、生徒会タイムでのダンスや演奏発表など、会場が一体となる盛り上がりであった。

③ 亀山中ピンクシャツ運動

生活委員会を中心に「ピンクシャツ運動」を行った。各学年で「いじめをなくすために、自分ができること」を一人ひとりが考え、クラスごとに掲示した。



(2) 学校運営協議会委員による授業参観と意見交換会、保護者の文化祭観覧の取組

コロナ禍で保護者に対する授業公開や教育懇談会等は実施できなかったが、委員の方に生徒たちの学習や体育祭の様子を観ていただいたり、生徒会役員との意見交換会をしたり、人数を制限した上で文化会館を利用した文化祭で学級合唱や生徒会発表などを観ていただいたりできた。学校だより・学年だより・学校ホームページ等で保護者・地域への発信もタイムリーに行い、委員からも保護者からも高評価であった。

(3) キャリア教育の取組

3年生の家庭科で保育実習を行い、校区の幼保育園へ手製のおもちゃを持って訪問、幼児との交流・保育体験をした。2年生の職場体験学習は今年も実施できず、職業調べ学習を進め、「社会に出るための準備をしましょう」のテーマで講演会を開いた。また、三年生を送る会では、元オリンピック女子バレーボール代表選手の山口舞さんから、日々努力を積み重ねているというお話を聞き、将来の進路や職業選択について考えることができた。

(4) 豊かな心の育成と絆づくり



ヒューマンライツが中心となり全校人権フォーラムを開催、「ちょっと待って！その考えはもしかしたら思いこみかも!!」をテーマに人権クイズや動画をもとにし、各学級で話し合ったりオンラインで各学級の意見を出し合ったりし、人権意識を高める取組になった。

「亀山中いのちの日(1/13)」の取組として、全学級で担任が命の尊さについて語ったこと、1/26にはスキー事故で大けがを負い麻痺が残る身体で全国を講演されている腰塚勇人さんから命の大切さや生きることの素晴らしさについて「命の授

業～ドリー夢メーカーと今を生きる～」という演題でお話を聴き、直接やりとりをしたことなど、改めて自分の大切さ、命について全校で考えるよい機会となった。

3 成果と課題

コロナ禍において学校行事の実施について見直しや検討を重ねる中、生徒が主体となる活動の在り方を模索し、さまざまな制限がある中でも実施できたことが成果である。

地域の行事そのものが開かれなかったり、姉妹校訪問交流や福祉施設体験がオンラインによる活動になってしまったりしたが、新たな連携が見られた。

学校だよりやホームページの活用により保護者や地域への発信を積極的にしながら、さらに連携を強化していく必要がある。

「学校・保護者・地域が一体となり豊かな心を育む人づくり」

亀山市立中部中学校

1 特色ある学校づくり推進の概要

“人は環境（学校・地域）の中で育ち経験を通して生きていく”ことを基本に、「豊かな心を育む人づくり」を活動のテーマとして取り組みを展開している。また、本年度は、従来の学校運営協議会の活動に加え、学校ボランティアの募集を開始。学校・家庭・地域が一体となり連携・協力して、それぞれの教育力の向上を図っている。

取り組みの視点

- ①学校運営協議会の地域連携・学校支援・環境安全の各部会と連携して、学校・保護者・地域が一体となって活動に取り組む体制づくりを推進する。
- ②命の大切さの学習など人権教育を中心とした今日的な課題を位置づけた講演会等を「いのちの授業」として開催し、生徒の人権意識の向上を図るとともに、人づくりの啓発を行う。
- ③学校行事や、地域行事を通して地域との連携を強化するとともに、地域の活動に生徒を積極的に参加させる。
- ④生徒会組織を中心として、環境整備に努め感性を育てるとともに、生徒自身が主体的に活動に参加することで、生徒の自治能力向上に努める。

2 具体的な実践例

視点①について

本年度の新たな取組であった学校ボランティアの募集に関して、募集開始前より、学校運営協議会役員の声掛けにより、多数の地域住民に環境整備面でご協力いただいた。6月を皮切りに複数回に渡り敷地内の樹木を大量に伐採され、グラウンド周辺の景観が見違えた。

また、学校ボランティアの応募者により正門前や体育館周辺の樹木伐採も行われた。ご厚意に深く感謝するとともに、今後も様々な方が快く関われる学校づくりを進める。



【伐採～積込の様子】

視点②について

互いに認め合う人権感覚豊かな生徒を育てる教育実践の取組として、心身の健康と「命」の大切さにかかわる学習を「いのちの授業」と位置づけ、講師を招いた講演会や授業を開催した。

川崎小で行われた人権フォーラムに参加、全校での人権フォーラム開催、亀山高校の人権サークル発表会への参加など、地域の中で人権について考える機会を多く持つことができた。また12月13日に行われた「性教育に関する講演会」では、宮崎産婦人科の協力を得て、豊富なデータと共に、自らを大切にすることを学んだ。

視点③④について

生徒の主体的な活動を大切にした、生徒・保護者・地域の人々の期待に応える学校づくりの取組として、生徒会本部や各委員会が中心となって、地域でのボランティア活動に取り組んできた。特に本年度は、小学生の参加する人権フォーラムの司



【川崎ふれあいフェスタ】

令和4年度「いのちの授業」

- ①交通安全教室 (対象：1年生)
5/31(火)校外学習 講師：亀山警察署交通課
- ②薬物乱用防止教室 (対象：1年生)
6/28(火)1限目 講師：亀山ライオンズクラブ
- ③救急救命講習 (対象：2年生)
10/3(月)・4(火)1～4限目 講師：亀山消防署北東分署
- ④中部中学校区人権フォーラム(対象：人権サークル)
11/4(金)川崎小学校にて
- ⑤環境学習講座 (対象：1年生)
11/10(木)1～3限目 講師：シャープ株式会社
- ⑥オンライン福祉体験 (対象：福祉委員)
11/14(月)放課後 講師：特別養護老人ホーム亀寿園
- ⑦人権フォーラム in 中部中 (対象：全校)
12/2(金)5、6限目
- ⑧性教育に関する講演会 (対象：2年生)
12/13(火)2限目 講師：宮崎産婦人科助産師
- ⑨亀山高校人権サークル発表会 (対象：有志25名)
12/17(土)13:30
- ⑩歯と口腔の保健指導 (対象：1年生)
1/26(木)2限目 講師：北町もり歯科院長
- ⑪性教育に関する講演会 (対象：3年生)
2/17(金)1、2限目 講師：MCサポートセンターみっくみえ

会進行や、川崎ふれあいフェスタの当日スタッフなど、様々な場で生徒の積極的な参加が見られた。また、校内の環境整備として、生徒による中庭花壇の苗植えを通じて、自主的に憩いの空間づくりに取り組んだ。

3 成果と今後の課題

【成果】

- ・学校評価アンケートの結果では、「子どもは福祉活動・ボランティア活動に積極的に参加しているか」「子どもは積極的に地域の行事に参加しているか」の両項目で保護者の肯定的評価が昨年の結果から大きく向上し、視点①③の取組へ評価が得られた。

【課題】

- ・授業内容について一定の評価を得ている一方、「授業理解」「子どもの学力」「家庭学習」の項目で保護者の評価が低い。学力への不安要因を取り除くべく、更なる改善を要す。
- ・「学校の様子を積極的に知らせているか」の項目について評価が低く、結果を受け学校ホームページや学校だよりの更新を増やした。行事再開後も、引き続き小まめな発信が必要である。

幸せ関中学校計画

～子どもたちの夢を叶えるために～

亀山市立関中学校学校運営協議会

1 特色ある学校づくり推進の概要

(1) 地域との交流の強化

生徒が地域に出て行き、ふれあいの場を作る。それをもとに、地域の方々が気軽に来校できる雰囲気を作る。

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

保護者は勿論、周りの大人がアンテナを張り巡らせ、諸機関と連携しながらより良い学校運営に当たる。

(3) 教育から導育への提案

教えて育てる子どもが受け身の「教育」から、「これをやってみたい、あれをやってみたい」という気持ちに子どもの心を導き育てる「導育」を展開する。

2 具体的な実践例

(1) 地域との交流の強化

①関中人権フォーラムにおいて、障がいに関わる講師先生の講演と車いす体験などを行った。校区人権フォーラムでは、校区内の小学6年生全員と人権サークルのメンバーが集まり障がいに関して考える機会をもった。



三中学交流会

三中交流会では各校の代表者が集まり、本校を会場とし、人権について交流を行った。

②学びの基盤づくりとしての出会い学習の実施

[1年生] …三重県の人権学習との出会い（三重県人権センター）

[2年生] …職場体験学習（市内の各事業所でのキャリア教育）

[3年生] …修学旅行（中国・四国・関西の歴史と産業を発見する出会い学習）

③関認定こども園アスレの園児たちが本校体育館に来館し、3年生が家庭科の保育実習として園児たちと交流した。グループごとに紙しばいや折り紙などをして楽しく過ごした。



園児との交流

(2) 生徒ひとりひとりの実情に応じたサポート

①キャリア教育への支援として2年生の職場体験学習を行った。

生徒は、様々な職業の働く人に密着して、実際の仕事を間近で見て体験することにより、働くことの意義や喜びを感じ、進路や将来について考えることができた。

②学生ボランティアの活用

地元出身の大学生のボランティアが授業や日常生活において、生徒の支援を行った。



(3) 教育から導育への提案

CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指し、「大人も子どもも幸せになるコミュニケーション～やる気スイッチの入れ方～」として「ペップトーク」の講師の方を招いてPTAとともに教育懇談会講演会を開催した。



(4) 広報による情報発信事業

定期的な通信の発行と学校ホームページの活用により、各種行事の場面等での本校における様々な取組を、保護者や地域に向けて発信した。また、冊子「やる気スイッチのありか」を学校運営協議会の考える子育てのヒントとして来年度入学する生徒の保護者に配付した。

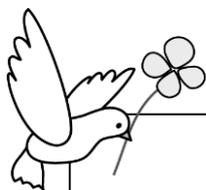
3 成果と課題

【成果】

- ① 関中学校ホームページの更新や効果的な編集を行い、保護者や地域の方が「見たいな」とか「必要だな」と思えるものになるよう工夫した。学校の取組みや学校運営協議会の取組みが広く伝わった。《通信や懇談会等で様子が分かる 保護者 97%》
- ② 学年ごとに実施した様々な「出会い学習」や人権フォーラムを通して、自分の身の周りにある人権課題に気づき、考えようとする生徒の姿が見られた。
《人権学習の機会の充実に関する肯定的評価 生徒 95%》
- ③ 3年ぶりに職場体験学習を実施し、事前にマナー講座も行われ、しっかりと取り組むことができた。《進路学習の機会の充実に関する肯定的評価 保護者 93%》
- ④ CSのテーマ「しあわせ関中計画」を目指して、昨年に引き続きペップトークの講演会を行い、地域の方、保護者の方と意識を共有することができた。

【課題】

- ① 学校評価アンケート等から家庭学習の定着化・習慣化に課題があることが明らかになった。今後家庭・地域と連携し、全校体制による補充学習の充実を図る必要がある。
- ② 地域教育資源を活用した教育活動を積極的にすすめ、子どものがんばりを積極的に発信し、自己肯定感をもって主体的に実践行動できる生徒を育成する必要がある。
- ③ 将来の夢や目標を持つことができず、進路を決めきれずに悩む生徒がいた。教育相談を充実させ、家庭ともさらに連携をとり、生徒の進路実現に努める必要がある。



令和5年3月 発行

亀山市教育委員会

〒519-0195 亀山市本丸町577番地

TEL 0595-84-5076

FAX 0595-82-6161

E-mail kyoushien@city.kameyama.mie.jp